

money

ライフプランアドバイザーが 教える



家計を見直す アイデア

vol.7 保障の見直し

早めに老後資金の準備を セカンドライフ

人生80年時代といわれるようになり、日本は世界でも1、2位を争う長寿国となりました。セカンドライフの時間はというと、サラリーマンを60歳で定年退職して80歳まで生きた場合、約10.1万時間(睡眠等をのぞき1日14時間、365日、20年分で計算)もの長い時間になります。余生のつもりで生きていくには、長すぎる時間といえるでしょう。

セカンドライフで一番に心配になるのが生活費。セカンドライフの生活費のベースとなる年金がいつからいくらもらえるのか、年金以外の収入の見込みが立てられるのかなど、よくわからずに不安に思うことが多いはず。

セカンドライフの生活費は、「どこで、だれと、どのように」くらすかを事前に考え、その希望ができるように早めに準備することで、漠然とした不安を安心に変えることができます。今の家計を見直して、セカンドライフをどうくらしたいか、話し合ってみましょう。

セカンドライフ家計ヘシフトするためのポイント

1 余裕ができたお金の金額と使い道をはっきり示す

子ども関連の費用は、子どもの独立後は余裕資金になると考えられます。このお金を貯蓄へまわすか、自己投資するか、趣味へ使うか…目的と金額をはっきりさせて、余裕資金を割り振りましょう。家計簿をつけていない方は、大まかにでも家計簿をつけてみることで、家計の現状が把握でき、余裕資金にいくらまわせるかがわかります。



2 ライフプラン表を作成する

定年までの年数を把握し、貯蓄する額を決めるために、今後5-10年のライフプラン表を作成してみましょう。これからどんな生活を送りたいか、それにはいくら必要か…夢や希望を書き出すことで、具体的な目標ができ、セカンドライフへ向けた準備のやる気もです。



3 生命保険の見直しをする

子どもが独立したときは、生命保険の見直しのチャンスです。これまでは、世帯主の病気や死亡に備えて、保障金額も教育費の分が上乘せられていたはず。教育費の支払いがなくなったら、その分の保障金額を減らすことができます。セカンドライフでは、生命保障よりも医療保障を重視しましょう。健康なうちに、入院などの保障を準備しておくことが大切です。



多くの会社では60歳で定年を迎えるため、65歳から年金が満額支給される場合、5年間の収入の空白期間が出てきます。それに加えて、これからの世代は、晩婚化が進んでいることから出産時期も後退し、子どもが独立した後、定年までの期間が短くなり、貯めどきも短くなるのが考えられます。収入の空白期間に備えるためにも、定年前のこの時期に意識的に貯蓄をすることが大切です。

DEKO 編集部行き

●ご意見・感想・身近な話題・クイズの答えなどお寄せください。



今月の クイズ

漢字の破片を2つの漢字になるよう枠にあてはめてください。

完成した熟語は?

--	--

●9月号のクイズの答え

清流 (せいりゅう)



クイズに応募いただいた中から抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

クイズの応募 お便利募集

■はがき・FAX・メールで以下の項目をご記入の上記宛先までお送りください。

①クイズの答え(クイズのみの応募も可) ②身近な話題 ③読んだ記事名とその感想 ④しゃべっ茶ohと料理への投稿 ⑤〒番号・住所・氏名・年齢(差し支えなければ)・電話番号

※②の身近な話題、④の投稿は、発信往来、しゃべっ茶oh、料理のコーナー等で紹介させていただくことを前提にさせていただくため、採用に際して、投稿者へのご連絡は行いませんのでご了承ください。匿名やペンネームなどをご希望される方は、お名前ところにその旨を記載いただければ結構です。

お知らせ



と料理のテーマ

募集

は13ページをご覧ください。

今月号の応募締切 2011年10月15日(必着分)

(フリガナ)	実名での掲載を希望されない方は ペンネーム	ご利用形態
おなまえ	()	
〒		電話番号
おところ		-

ハガキにはれる大きさです

宛先

〒509-0197 各務原市鵜沼各務原町1-4-1 コープぎふ DEKO 編集部
FAX 058-370-6860 E-mail yohtubo@tcoop.or.jp
(※住所は省略いただいても可)